

〈地下室を隠れ家として〉

ジャーナリスト
松本 侑壬子

第二次世界大戦中、ナチスによるホロコースト（大虐殺）からユダヤ人を守った実業家オスカー・シンドラ、日本人外交官杉原千畝。命の危険をも顧みず良心に従った勇氣ある英雄的行為は広く知られている。そしてもう一組、ドイツ占領下のポーランドでユニークな方法で三〇〇人ものユダヤ人を死の収容所から救い出し、かくまった一組の夫婦がいた。これは、その動物園の園長夫妻の実話に基づく映画である。

一九三九年、当時ヨーロッパの規模を誇るワルシャワ動物園の朝。園長の妻アントニーナは自転車で大団な動物園を回り、動物たちに声をかけ、ときにはお産を手伝ったりするのが日課だ。明るく元気で優しい彼女は飼育員たちの信頼も厚い。だがその年の九月、ドイツがポーランドに侵攻、第二次世界大戦が勃発した。大混乱の中、動物園は存亡が問われる危機に。不安に怯えるア

ントニーナに、動物園を接收したドイツ軍将校でヒトラー直属の動物学者だというヘックが、「あなたの動物を一緒に救おう」と語り掛け、さらに希少動物をここで預かりたい、とも。思いがけない申し出に心を許しかけるアントニーナ。だが園長のヤンは、ヘックの突然で不可解な提案の底意を測りかねる。妻への馴れ馴れしい態度も許し難い。果たして、数日後、立場を一転させたヘックは、「上官の命令」を理由に平然と動物たちを射殺する。

街ではユダヤ人らが次々にゲットー（強制居住地区）に連行され始めた。そこからさらに強制収容所に送られるのだ。みかねたヤンは、何とか彼らを救う方法を思いつく。動物園をナチス兵士の食糧となる豚の飼育場にし、その餌として毎日ゲットーから出る生ごみを運ぶトラックにユダヤ人を紛れ込ませて連れ出す。つまり、動物園を隠れ家に

する、というのが。人も動物も、まして同じ人間同士、命の重さに変わりはない、との信念のアントニーナは迷うことなくユダヤ人らを受け入れ、地下室の檻の中に隠した。そして、温かいスープや衣類などを差し入れた。園内に常駐しているドイツ兵に気づかれないために、アントニーナはピアノを弾いて「静かに」「隠れて」などの合図を送った。

ヤンは抵抗運動の同志との地下活動のために留守がちになり、アントニーナはひとりで幼い息子、生き残った動物たち、そして地下のユダヤ人たちの命を守らねばならない。はじめは紳士的だったヘックに「動物を愛する者同士」と期待と幻想を抱いたが、だんだん本性をあらわにする。そんな相手を中心に怒らせないで守るべきものを守るか。まさに命がけの女の闘いである。

二ユージーランド・マオリ族出身のニキ・カーロ監督は、デビュー作でクジラの大群を率いて大海に乗り出す少女を描いた。本作でも困難な状況下で勇氣をもって他人のために闘う女性の姿を共感と尊敬をもって描いている。動物園でかくまわれた三〇〇人はほぼ全員戦時を生き延びた。密告により発見され命を落とした二人以外は。夫妻宅は、今も動物園内に残るといふ。



『ユダヤ人を救った動物園 アントニーナが愛した命』

アメリカ映画 (127分)

監督：ニキ・カーロ

出演：ジェシカ・チャステイン、ヨハン・ヘルデンブルグ、
ダニエル・ブリュール、マイケル・マケルハットンほか

12月15日より TOHO シネマズ みゆき座ほか全国順次公開